

3. 常磐線の全線運転再開にあたり、富岡駅～浪江駅間の放射線量を明らかにするとともに特定復興再生拠点区域内の一部地域先行解除箇所の放射線量を明らかにすること。

回答：富岡～浪江駅間の放射線量については別紙のとおりである。

●特徴点

- ・施工基面など鉄道用地の除染を実施し、のり面へのモルタル吹付や、沿線の伐採などを行ってきた。
- ・運転再開にあたり、**7箇所**（富岡～夜ノ森、夜ノ森駅、夜ノ森～大野、大野駅、大野～双葉、双葉駅、双葉～浪江）**にモニタリングポストを設置して継続して空間線量を把握する。**駅間の設置箇所はその区間で最大線線量を観測した箇所に設置している。
- ・モニタリングポストの値が大きく変化するようであれば、その際に調査して、必要な措置を講じていく。
- ・作業箇所においてホットスポットがあれば、個別に状況を見て判断していく事になる。
- ・動物対策は、侵入防止柵の設置、行政への駆除の依頼、衝撃した動物の処理を迅速にする機械（軌陸車）の導入、死骸処理施設の確定などを行っている。柵はこれまでに動物を発見した申告があった箇所などを中心に設置している。
- ・E531 系の窓が開かないようにする考えはない。空調が効くので開けることはないと考えている。
- ・車両の各種フィルタの清掃に関しては、これまでの実績に鑑みて特段の対策は不要であると考えている。なお、作業者にはマスクの着用などを喚起していく。

4. 「2019 年 3 月ダイヤ改正」における議論を踏まえ、区所毎に「行路検討プロジェクト」の活動実態を明らかにすること。

回答：社員が積極的な関わりを持つ機会を設ける目的で行路勉強 P T を設置したところであり、2019 年 10 月から活動を開始しているところである。

●特徴点

- ・すべての職場において設置して活動してきた。今年度は、勤務制度と行路の組み替えについて勉強し、自区の実態の変更に必要となるものを作成した。計画助役がそれをチェックして支社に案として出している。その中から、実現したものもある。
- ・メンバーは公募しており、多くの人が関わってほしいが、希望しない人まで無理強いするものではない。
- ・ダイヤの検討では、11 月に一次、二次、最終集約をして 12 月に各組合に提案している。これまでも、提案後であっても行路の差し替えなどは行っている。
- ・区所毎のバランスをみて、持ち替えなど全体の最適をみて決定していく。